

平成30年度 第1回北海道幹線道路協議会 議事概要

1. 日 時 平成30年8月2日（木）10時00分～11時00分

2. 場 所 TKP札幌駅カンファレンスセンター3D

3. 議 事

- (1) 重要物流道路制度の創設について（報告）
- (2) 重要物流道路制度を契機とした新たな広域道路交通計画について
- (3) 有識者等の選定について
- (4) 地域の現状と将来像について
- (5) その他

【 主な発言 】

- ・重要物流道路制度を契機とした「新たな広域道路交通計画」等を地方ブロック単位で北海道開発局、北海道、札幌市が連携し策定する。
- ・「新たな広域道路交通計画」等の策定に向け、今後、有識者等へ意見聴取しながら道路管理者間で連携して進める。
- ・災害時のネットワークでは広域分散型社会を形成する北海道の特性を考慮するとともに、近年の台風や豪雪等を踏まえ、本道の物流・人流を支える重要なルートとなる道央圏と道東圏を連絡する高速道路等の代替機能強化を重点的に行うことも重要。

以上

有識者等の主な意見

・高規格幹線道路は災害時のリダンダンシーや交通安全の観点から、4車線で繋がっていることが重要である。

<対応>

・高規格幹線道路の車線数について整理

⇒ビジョン：P. 18

※広域道路ネットワークの基本方針にて記載

・札幌都市圏の機能が全道的見地から重要であることを明示する必要がある。

<対応>

・札幌都市圏の機能について整理

⇒ビジョン：P. 8、40

※交通防災拠点の基本方針にて記載

・広域分散型地域である北海道において、物流の効率化を図る隊列走行の実現及び隊列走行拠点としてのインランドデポ（内陸地における保税蔵置場を核とした輸出入取扱拠点）を構築する必要があると考えている。

<対応>

・隊列走行、インランドデポについて整理

⇒ビジョン：P. 40

※交通防災拠点の基本方針にて記載

・災害時のネットワークでは広域分散型社会を形成する北海道の特性を考慮するとともに、近年の台風や豪雪等を踏まえ、本道の物流・人流を支える重要なルートとなる道央圏と道東圏を連絡する高速道路等の代替機能強化を重点的に行うことも重要

<対応>

・災害時の物流に関する課題について整理

⇒ビジョン：P. 13、14

※広域道路ネットワークの基本方針にて記載

- ・北海道胆振東部地震では、信号が消灯し交通サービスを提供できない状態であった。仮に交通需要が多い昼間に発生していればかなり危険な状態であったと想定される。
- ・そのような状態を考えると、1番重要なのは災害時に必要な道路であり、災害時に特化した人流物流を確保する道路・車線を確保していくことを考えていただきたい。

<対応>

- ・災害時の物流に関する課題について整理

⇒ビジョン：P. 11

※広域道路ネットワークの基本方針にて記載